

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201768		
法人名	社会福祉法人札幌蒼生会		
事業所名	グループホーム栄町		
所在地	〒007-0846 北海道札幌市東区北46条東16丁目1番18号 (電話) 011-782-1000		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年12月16日	評価確定日	平成21年2月23日

【情報提供票より】 (平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 4月 23日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算	14.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	2~3 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000~42,000 円	その他の経費(月額)	15,000~28,000 円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,250 円			

(4) 利用者の概要 (12月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名	
要介護1	3 名	要介護2	4 名			
要介護3	5 名	要介護4	3 名			
要介護5	2 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	89 歳	最低	66 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人共生会ことに共生クリニック ラビット歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、開設後約5年が経過しており、併設する通所介護事業所及び同法人運営の他の介護事業所とも、連携や情報交換を行っている。また、同法人では、複数の事業所運営の実績があり、職員の異動等を行ってはいるが、利用者への影響は少ない。管理者、職員は一体となり、「個別ケアの重視」をスローガンに掲げて、日夜認知症高齢者のサービス提供について研究するなど、熱心に取り組んでいる。個別ケア重視に向けて、介護計画のアセスメント方式の変更を行うとともに、利用者の生活像や要望についての意見の探求等を行っており、利用者の笑顔にもその成果が表れている。記録類等を更に整備し、地域との連携を図ることにより充実が見込め、今後に期待ができる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	自己評価等は、管理者と全職員にて実施しており、昨年度の改善課題の半数はすでに改善に取り組まれている。今後は、改善計画シートを作成するなどし、具体的な改善に向けた取り組みが期待される。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者と全職員が、利用者の立場に立って様々な角度から意見交換を行い、サービスの質の向上に向けて努力しており、今後も更なる充実を期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催しており、特にサービス向上に向けた取り組みについて、運営推進委員と活発な意見交換を行い、サービス提供の場面に活かすよう努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会やカンファレンス時において、家族から意見を聴く体制にはある。しかし、家族からの要望や意見等を記録として整備しておらず、今後は書類等により記録を残すなどの取り組みを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	併設する通所介護事業所を活用し、敬老会等の行事を地域に開放する形で開催している。今後は、運営推進会議を活用して、地域や同業者等と相互に協力しながら、地域活動を充実することが期待される事業所である。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を事業所内に掲示している。しかし、関連する書類に理念の記載をするまでには至っておらず、外部からは理解しにくい状況である。	○	行政からの実地指導後、間もないこともあり、書類の変更などには至っていないが、常に理念をわかりやすく説明できる体制にあることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事業所内に掲示している。また、職員採用時には、理念達成に向けて、オリエンテーションを実施し、理念についての説明をしているとともに、職員全体の会議等で、理念達成に向けて、意見交換を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の周辺地域は、マンションや、企業の事務所が多いが、利用者は散歩に出かけた時に地元の人々と挨拶を交わしている。近隣の小・中学生の訪問があるとともに、事業所が実施する行事に、地域からの参加がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を、全職員からの意見を聴取して実施している。昨年度の外部評価結果に対しては、改善計画シートを作成するなどの具体的な取り組みを行うまでには至っていない。	○	今後は、評価結果について、改善の余地がある項目や、達成するとサービスの質の向上が見込まれる項目については、改善計画シートを作成し、計画的に改善に向けて取り組むことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。しかし、事業所の運営に関しての具体的な取り組みや、自己評価、外部評価の取り組みについては、具体的な話し合いを行うまでには至っていない。	○	事業所運営に関わる内容については、運営推進会議にて具体的に話し合いを行い、今後の取り組みについて委員からの意見を交えて検討することが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	札幌市主催の管理者会議へ参加し、意見交換を行っている。また、事業所は、区グループホーム協議会の代表幹事であり、他の事業所と連絡や情報交換等の調整を行っている。運営推進会議には、地域包括支援センター職員が行政職員代表として出席しており、意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	併設する通所介護事業所と共同で広報誌を作成しており、利用者の日常の生活の様子を家族に伝えている。また、面会時には、職員が家族に直接利用者の生活の様子等を伝えている。さらに、金銭台帳にて、預かり金を管理しており、毎月の支出の状況を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やカンファレンス開催時に、家族から意見を受けるようにしている。しかし、家族からの要望等や、家族と話し合いを実施した記録を、整備するまでには至っていない。	○	家族からの事業所に対する意見は、カンファレンス検討記録や要望受付、苦情受付等の記録書類に記載し、整備するとともに、これらの書類を基に、職員や管理者が意見交換を行い、サービス提供の場面で活用することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人内での配置転換に伴う異動はあるが、利用者一人ひとりの能力や認知の状況にあわせた対応を行うなど、利用者への配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を年度毎に計画し、実施している。また、外部研修に関しては、職員が輪番により随時参加しており、研修内容については、随時報告し、他の職員に伝達、周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所は、区グループホーム協議会の代表幹事であり、区内の他事業所と情報交換や連携を積極的に行っている。近隣の事業所とは、相互に見学会や職員の交流、現場実習などを開催している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設する通所介護事業所の利用者が、当事業所を利用する場合もあるとともに、職員間の交流等も行っているなど、利用者との関係づくりに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、個別ケアの重要性を念頭に置きながら、利用者の何気ない発言からも思いを受け止めるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日常生活の中から、利用者の要望や意向を聞き取っており、サービス提供場面で活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員と計画作成者は、介護計画の原案をアセスメントを実施して策定し、その後家族や他の職員を交えてカンファレンスを実施している。アセスメント方式を今年度より改善しており、利用者への理解度が上がり、家族や利用者の意向に沿った形の介護計画の策定に至っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、利用者への評価を実施している。また、カンファレンスにて、利用者、家族の意向を聞き取っており、介護計画の見直し時に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所介護事業所を併設しており、通所が休日の際にはあき空間を利用して行事を開催するとともに、通所介護事業所と共同で、敬老会等の行事を実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医により、2週間に1度定期的に診察を受けている。また、内科以外の受診については、家族と協議しながら支援を行う体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び終末期に向けて、利用開始時に家族等に口頭で説明を実施している。しかし、段階に応じての説明や、説明に基づいた文書の取り交わしを行うまでには至っていない。	○	利用開始時に、事業所として対応が可能な範囲について、文書で説明し、事前に協議を行ったり、利用者の状況に応じて段階的に状況を説明し、利用者、家族と同意の文書を交わすなどの取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、同法人で統一した同意書の取り交わしを行っている。また、事業所を訪れるボランティアや実習生に対しても、同意書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	近隣への散歩や、スーパーへの買い物などの対応を実施している。利用者について介護計画策定時のアセスメントの際に深く話し合っており、個人の要望などを確認している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用しており、利用者が食事により季節を感じるような工夫をしている。食事の下ごしらえや配膳、下膳などを、利用者は職員と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回の入浴支援を行っている。入浴拒否が強い利用者には、清潔保持のために様々な工夫を行いながら誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や清掃、洗濯物たたみなどを、利用者の能力に応じて実施している。年間で行事計画を決めており、外出、外食などを実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所周辺の散歩や、スーパーへの買い物などを実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の玄関は常に開錠している。エレベーターには電子チャイムを設置しており、職員は利用者の行動を常に把握できるなど、事故が起きないように配慮をしている。夜間は防犯上の理由により施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防火管理者の指示、指導により、防火訓練を実施している。火災のみならず、災害全般についての、想定範囲を拡大した取り組みや、夜間想定訓練なども実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの水分摂取量や、食事の残量を記録している。栄養については、栄養士に相談しており、塩分制限など、疾病に合わせた献立づくりを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、ユニットにより異なっており、共に南面の窓を活用した自然採光への配慮をしている。季節を感じる装飾や、行事の写真を掲示しており、利用者の生活に刺激を与えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者それぞれが、使い慣れた物品を持ち込んでおり、利用者は落ち着いた雰囲気の中で生活している。		

※  は、重点項目。